

#### 2. 4. 4 一般利用者における対策状況

I P Aが実施した「2019年度情報セキュリティに対する意識調査」の結果を基に、一般利用者の情報セキュリティ対策の実施状況について述べる。

##### （1）パソコン利用者のセキュリティ対策実施状況

パソコン利用者のセキュリティ対策実施状況の調査結果によると、「Windows Updateなどによるセキュリティパッチの更新」をしている割合が50.8%（2018年度から4.9%ポイント減）、「セキュリティソフト・サービスの導入・活用」をしている割合が55.1%（2018年度から5.8ポイント減）で、どちらも半数以上が実施しているが、2018年度よりも減少している。また、「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」割合は45.8%（2018年度から0.4ポイント上昇）、「怪しいと思われるウェブサイトにはアクセスしない」割合は44.4%（2018年度から0.3ポイント上昇）である等、若干上昇している項目もあるものの、いずれも過半数には届かず伸び悩んでいる。

近年のOS（オペレーティングシステム）は利用者が意識しなくても初期設定でセキュリティパッチが自動更新されるものが増えており、Windows Defenderウイルス対策のように、パソコンの購入時点でインストール済みのセキュリティソフトも存在する。そのため、本調査で各対策を「実施している」と回答しなかった利用者の中には、意識せずに対策を実施している人が含まれる可能性もある。しかし、利用しているパソコンで実施されている対策や設定を把握していないことは、偽警告や偽セキュリティソフト（「1. 2. 6 個人をターゲットにした騙しの手口」参照）等、別の被害につながる可能性がある。パソコンを購入した販売店にセキュリティソフトウェアについて相談する、あるいはOS開発元のサイト等を参考に設定を確認する、等の対応が望まれる。

出典：情報セキュリティ白書2020（P118～P119）

独立行政法人情報処理推進機構